

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-78	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	言文・708	高等学校 言語文化		

1. 編修の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。 ● 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。 ● 自分の体験や思いを他者に伝えるための、確かな文章の創作力を育成する。 ● 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。
2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
古文の世界		
古文の世界を楽しむ	古くから語り継がれてきた説話文学、我が国最古の作り物語である『竹取物語』の読解を通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養えるようにした。(第5号)	p. 34～p. 49
現代にも生きる教え	古人の豊かな情操に触れることで、真理を求める態度と豊かな情操を培うことができるようにした。また、隠棲者の文学を扱うことにより、自己と社会との関わり方について考察を深められるようにした。(第1号・第3号)	p. 50～p. 59
和歌による心の交流	和歌を通して表現されている心情の読解を通して、豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号)	p. 60～p. 73
平安宮廷文学の世界	古人の豊かな情操に触れることで、真理を求める態度と豊かな情操を培うことができるようにした。また、我が国の自然風土を観察した中古の随筆に触れることで、自然を大切に作る心をはぐくむとともに、我が国と郷土を愛する心を養えるようにした。(第1号・第4号・第5号)	p. 74～p. 83
仮名日記文学の原点	我が国の仮名日記文学の先駆である『土佐日記』の読解を通して、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 84～p. 89
戦乱下の人間像	中世の戦乱期における人間像を描いた軍記物語の読解を通して、生命を尊ぶ心と伝統と文化を尊重する態度をはぐくめるようにした。(第4号・第5号)	p. 90～p. 99

先人を思う旅	自然の景観や人間の営みを描いた近世の俳諧紀行文の読解を通して、自然や伝統・文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。(第4号・第5号)	p. 100～p. 105
異なる考えの比較	時代ごとに作られた「注釈書」に触れることを通して、先人がどのようにして古典文学を尊重し、それを後世に受け継いできたかを理解できるようにした。(第5号)	p. 106～p. 110
漢文の世界		
日本語の中に生きる漢文	漢文を読むための基礎的知識の習得を通して、漢文が我が国の言語文化に与えた影響を知ることができるようにした。(第5号)	p. 114～p. 123
故事と成語	故事成語として伝わる漢文の逸話を取り上げることにより、中国の故事と我が国の伝統的な言語文化との関連について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 124～p. 135
読み継がれる歴史	古代の中国において個人の価値を發揮した人々の伝記を取り上げることにより、個人の能力や創造性を尊重する価値観の普遍性について考察できるようにした。(第2号)	p. 136～p. 145
漢詩のことば	日本と中国における文化の類似点・相違点を確かめながら漢詩を読解することで、日本文化と中国文化の関係性について理解を深められるようにした。(第5号)	p. 146～p. 157
論語とその注釈	古代中国の思想に触れることで、幅広い知識と豊かな情操を養うとともに、自己と社会との関わり方についての考察を深められるようにした。(第1号・第3号)	p. 158～p. 167
論説の文章	我が国でも古くから名文の手本として読み継がれてきた漢文作品を取り上げることにより、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 168～p. 172
古典から現代へ		
受け継がれる古文	主人公の心情や人物像を深く読み取ること、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、当該作品の典拠となった古文作品との比較読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 176～p. 197
「ことば」を吟味する	辞書編集に勤しむ人々を描いた現代小説の読解を通して、我が国の「ことば」をあらためて吟味する機会を設けることで、我が国の伝統と文化を尊重する心を培うとともに、真理を求める態度・勤労を重んずる態度を養えるようにした。(第1号・第2号・第5号)	p. 198～p. 213

記録する文学	太平洋戦争における沖縄戦を描いた小説の読解を通して、戦争の悲惨さを理解し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 214～p. 233
語感を磨く	我が国の伝統的な言語文化の一つである俳句を取り入れた現代小説の読解を通して、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)	p. 234～p. 249
受け継がれる漢文	主人公の心情や人物像を深く読み取ることで、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、当該作品の典拠となった漢文作品との比較読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)	p. 250～p. 267
詩歌の系譜	古典文学から現代文学にいたるさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。また、短歌・俳句の創作を通じて、創造性を培うことができるようにした。(第2号・第3号・第4号・第5号)	p. 268～p. 294

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、知っておきたい国語的教養に関する「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-78	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	言文・708	高等学校 言語文化		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 全体

- ① 我が国の言語文化の変遷を解説した「言語文化と古文」「言語文化と漢文」「言語文化と近現代」コーナーを各編の冒頭に収録した。
- ② 教材の読解から発展させて、我が国の言語文化についての知識や理解を深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

ズームアップ **春秋・戦国時代**

1 周王朝の成立と衰退
中国で実在が確認されている最初の王朝は殷である。殷は前十一世紀、周の武王に滅ぼされた。周は諸侯に各地を統治させる封建制度による政治を行ったが、前七七〇年に周辺民族に追われ、都を鎬京から東の洛邑に移した。以後、周王朝の権威は衰え、諸侯が各地で勢力を振るうようになった。周が遷都してから、諸侯国の晋が韓・魏・趙に分裂した前四〇三年までを春秋時代、それから前二二二年の秦による中国統一までを戦国時代という。

略年表
前16世紀 殷 前11世紀 周 前770 春秋 前403 戦国 前221 秦

西周の封建制
天子(王)に諸侯(公)が領土を与え、天子は忠誠を尽くす。

ズームアップ 辞書には個性がある

- ③ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、本編教材の理解がより深められるようにした。

探究の扉 **比べ読み**

白氏文集

香炉峰下、新卜山居
草堂初成、偶題二東壁
白居易

日高睡足猶慵起
遺愛寺鐘欲枕聽
廬山僧
香炉峰雪撥簾看
司馬仍為送老官

① 卜 ② 初 ③ 偶 ④ 題 ⑤ 成 ⑥ 初 ⑦ 香 ⑧ 爐 ⑨ 峰 ⑩ 下 ⑪ 新 ⑫ 卜 ⑬ 山 ⑭ 居 ⑮ 草 ⑯ 堂 ⑰ 初 ⑱ 成 ⑲ 偶 ⑳ 題 ㉑ 二 ㉒ 東 ㉓ 壁 ㉔ 白 ㉕ 居 ㉖ 易

次の漢詩は、「香炉峰の雪いかならむ」と「廬山僧」と読んでその内容を「枕草子」と比較し

探究の扉 **比べ読み**

今昔物語集

羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語

今は昔、摂津の国のわたりより、盗みせむがために京に上りける男の、日のいふなつては昔のことなれば、摂津の国のあなりか。
まだ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人しげく明るかつたために、
ありきければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、「それに見えじ。」と思ひて、門の上層にそ

次の一話は、芥川龍之介が「羅生門」執筆「羅生門」と異なる点がどこにあるかを意

人通りが静まるまでと思ひて、門の上層にそ

- ④ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 古文の世界

① 体系的な文法学習のために「古文チェックポイント」コーナーを設けて文法解説を施し、同コーナー内には、現代語との関連性が理解できる「知っておきたい日本語の歴史」(コラム)を適宜掲載した。

古文チェックポイント①

1 敬語とは
話し手(書き手)が話題の中の人物や聞き手(読み手)に対して敬う気持ちを表す言葉で、**尊敬語・謙讓語・丁寧語**の三種類に分類される。

助動詞	動詞	敬語
活用語の後に「給ふ」などを付ける。 ○ (中宮は) 笑はせ給ふ。(大・3)	○ おはす(「あり」を使う)。 ○ (翁の発言)「竹の中に(かくや姫が) 鶴からかくや姫に対する敬意 おはするにて知りぬ。」(皇・5)	尊敬語 話し手(書き手)が、話題の中の動作をする人に敬意を表す。
活用語の後に「参る」などを付ける。 ○ (巴から義仲に対する敬意)	○ 「参る(「行く」)を使う」。 ○ (中宮のもとへ) 中納言参り給ひて参上なごつて	謙讓語 話し手(書き手)が、話題の中の動作の受け手に敬意を表す。

敬語の敬意は減っていく

「貴様」という言葉には、乱暴な言葉だと感じる人が多いのではないが、この語は「貴十様」であり、もともと「あなた様」という意味だった。時代の経過と使用層の拡大に伴って、いつしか相手へのしる語になってしまったのである。

このように、敬語の敬意は徐々に減っていく傾向がある。「給ふ」も、奈良時代までは単独で神仏や天皇の動作に用いられる最高級の敬語だったが、平安時代には普通の敬意を表すようになった。そのため、尊敬の助動詞「す」や「せす」と組み合わせた最高敬語(二重尊敬)が生まれたのである。

知っておきたい 日本語の歴史

知っておきたい 日本語の歴史

四段活用(五段化)：時代とともに、推量などの助動詞「む」(「共言」が「じ」に変化し、それに上接する四段助動詞の未然形を「じ」の音・仮名遣いで表すようになった)。

現代語の五段活用動詞

例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
落ちる	お	ち	ち	ちる	ちる	ちれ	ちよ
聞き	か	き	き	く	く	け	け

二段活用(一段化)：活用形の中で最も使用頻度が高いのは連用形である。二段活用動詞では連用形の「じ」「い」の音が他の活用形に影響し、「じ」「い」の音が消えて「一段活用化した」。

現代語の上二段活用動詞

例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
落ちる	お	ち	ち	ちる	ちる	ちれ	ちよ
聞き	か	き	き	く	く	け	け

② 作品の背景知識を深めるとともに、読書活動にもつなげることができる「作品解説」コーナーを設けた。

作品解説

「みやびな男」の一代記 伊勢物語

「伊勢物語」には、さまざまな恋の形が描かれている。恋愛の情を理解する主人公の「男」は、在原業平のイメージと重なり合い、理想的な平安の男性像を形作った。

成立 「古今和歌集」(元貞)に収録された在原業平(三頁)の和歌や詞書と深いつながりがあり、物語の核となる部分。延喜五(延喜)年以前には成立していたとされる。その後、十世紀を通じて増補され、十一世紀初めまでには、現在のような形になったと考えられている。

作者 未詳。複数の作者が関わっているとも言われる。

内容 約百二十五段(伝本によって異なる)からなる歌物語。各章段は、和歌を中心に、その歌が詠まれた事情を語る短編物語となっており、「昔、男」で始まることが多い。この「男」は、読者に在原業平をイメージさせるが、実際の業平とは異なる虚構の部分も多い。

現存する本は、「男」の初冠(元服)から死までの一代記的

作品解説

日記をつけたる人は、「それは文学か」と聞かれても、「そうです」とはなかなか答えられないだろう。文学としての日記とは何か。その答えの力ぎを握るのが「土佐日記」である。

作品解説

「みやびな男」の一代記 伊勢物語

成立 紀貫之が土佐から帰京した承平五(五五)年以降、間もない時期に成立したと考えられている。

作者 紀貫之(八五?~九四?)。平安時代前期を代表する歌人で、「古今和歌集」の中心的な撰者として、その「仮名序」を執筆した。三十六歌仙の一人。延長八(九〇)年に土佐守に任命され、現地に赴任した。

内容 承平四(五四)年十二月二十一日に土佐を出発し、翌年二月十六日深夜に京都の自宅に到着するまでの、五十五日間の旅の記録。任期を終えて帰京する国司(紀貫之)一行の一員であったある女性が、仮名で記したという体裁でつづられる。この女性は、土佐で幼い女兒を亡くしたとされており、望郷の思いとともに、亡き子への追憶も大きな主題となっている。

作品解説

日記をつけたる人は、「それは文学か」と聞かれても、「そうです」とはなかなか答えられないだろう。文学としての日記とは何か。その答えの力ぎを握るのが「土佐日記」である。

作品解説

「みやびな男」の一代記 伊勢物語

成立 紀貫之が土佐から帰京した承平五(五五)年以降、間もない時期に成立したと考えられている。

作者 紀貫之(八五?~九四?)。平安時代前期を代表する歌人で、「古今和歌集」の中心的な撰者として、その「仮名序」を執筆した。三十六歌仙の一人。延長八(九〇)年に土佐守に任命され、現地に赴任した。

内容 承平四(五四)年十二月二十一日に土佐を出発し、翌年二月十六日深夜に京都の自宅に到着するまでの、五十五日間の旅の記録。任期を終えて帰京する国司(紀貫之)一行の一員であったある女性が、仮名で記したという体裁でつづられる。この女性は、土佐で幼い女兒を亡くしたとされており、望郷の思いとともに、亡き子への追憶も大きな主題となっている。

(3) 漢文の世界

① 体系的な句法学習のために「漢文チェックポイント」コーナーを設けて句法解説を施した。

(4) 古典から現代へ

- ① 教材となる文章は、近代以降の文章から、我が国の言語文化を理解し、親しむことに適したものを精選して収録した。
- ② 作家の略歴を知ることができるとともに、読書活動にもつなげることができる「作者解説」コーナーを設けた。
- ③ 「詩歌の系譜」の単元では、古典から現代にいたるさまざまな詩歌を掲載し、我が国における詩歌の変遷が理解できるようにした。

2. 対照表

*配当時数における丸付き数字は「A 書くこと」の時数を示す。

図書の内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数
単元	教材	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等					
				A 書くこと		B 読むこと			
		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)		
	言語文化と古文		ア・エ・オ					30	1
	【古文チェックポイント1】古文の特徴		ウ・エ					32	1
古文の世界を楽しむ	宇治拾遺物語	ウ	ウ			ア・イ・エ	イ・ウ	34	4
	【古文チェックポイント2】古語・省略・指示語・品詞・活用		ウ					36	
	【古文チェックポイント3】動詞・形容詞・形容動詞		ウ・エ					40	
	【作品解説】宇治拾遺物語		イ・カ					42	
	竹取物語		イ・ウ			ア・イ・オ		43	
	【古文チェックポイント4】係り結び・接続助詞「ば」		ウ					47	
	【作品解説】竹取物語		イ					48	
	【ズームアップ】古語と現代語		ウ・エ					49	
現代にも生きる教え	徒然草		ウ			ア・イ・ウ・オ	イ	50	3
	【作品解説】徒然草		イ					56	
	【ズームアップ】世の中を見つめる目		イ					57	
	【古文チェックポイント5】助動詞		ウ・エ					58	
和歌による心の交流	伊勢物語	オ	ウ			ア・イ・ウ・エ・オ	イ	60	3
	【探究の扉】今昔物語集		ウ			エ	ウ	62	
	【作品解説】伊勢物語		イ・カ					71	
	【ズームアップ】『伊勢物語』の影響		イ					72	
	【古文チェックポイント6】助詞		ウ・エ					73	
平安宮廷文学の世界	枕草子[春はあけぼの・雪のいと高う降りたるを]	エ・オ	ア・ウ			ア・イ・エ・オ	イ	74	3
	枕草子[ありがたきもの]		ウ	ア・イ	ア			76	②
	【探究の扉】白氏文集		ウ			エ	ウ	79	
	【作品解説】枕草子		イ					80	
	【ズームアップ】女房と宮廷生活		イ・カ					81	
	【古文チェックポイント7】敬語		ウ・エ					82	
仮名日記文学の原点	土佐日記	エ	ウ			ア・イ・ウ・オ	イ	84	2
	【作品解説】土佐日記		イ					88	
	【ズームアップ】漢文日記と仮名日記文学		イ					89	
戦乱下の人間像	平家物語	エ	ウ			ア・イ・ウ	イ	90	3
	【作品解説】平家物語		イ					98	
	【ズームアップ】和漢混交文		オ					99	
先人を思う旅	おくのほそ道		ウ			ア・イ・エ・オ	ウ	100	2
	【作品解説】おくのほそ道		イ					104	
	【ズームアップ】旅と文学		イ					105	
異なる考えの比較	古典と注釈	オ	ウ			ア・イ・エ・オ	ウ	106	2
	【探究の扉】英語で読む百人一首		ア			エ	エ	109	
	【ズームアップ】つながる古典		ア・カ					110	
日本語の中に生きる漢文	言語文化と漢文		ア・エ					112	1
	入門一		ウ					114	2
	【漢文チェックポイント1】訓読の基礎		ウ					116	
	入門二		ウ					118	
	【漢文チェックポイント2】再読文字・助字・置き字		ウ					120	
	【ズームアップ】漢文由来の名付け		ア					122	
故事と成語	漁夫之利		イ			イ・エ		124	3
	矛盾		イ			イ		126	
	狐借虎威		イ			イ・エ		128	
	朝三暮四		イ			イ		130	
	【ズームアップ】故事成語の用例を探そう		ア					132	
	【漢文チェックポイント3】否定・疑問・反語・詠嘆の句法		ウ					134	
読み継がれる歴史	管鮑之交		イ			ア・イ・エ		136	3
	先従隗始		イ			イ・エ		138	
	鶏口牛後		イ			ア・エ		140	
	【漢文チェックポイント4】使役・受身の句法		ウ					143	
	【ズームアップ】春秋・戦国時代		イ					144	
漢詩のこぼ	漢詩					ア・ウ・エ・オ		146	3
	【探究の扉】紅のうつろい		ア・イ・エ			エ		152	
	【漢文チェックポイント5】漢詩の形式		ウ					156	
論語とその注釈	論語		イ			イ・エ・オ		158	3
	【探究の扉】論語の注釈		イ			エ	ウ	164	
	【漢文チェックポイント6】仮定・比較・選択・限定・抑揚・願望の句法		ウ					166	
論説の文章	雑説					ア・イ		168	3

	【ズームアップ】科挙		イ・カ					170		
	言語文化と近現代		エ・オ					174	1	
受け継がれる 古文	羅生門	イ・ウ・エ				ア・イ・ウ・エ	イ	176	3	
	【作者解説】芥川龍之介		カ					190		
	【探究の扉】今昔物語集	ア				エ	ウ	192		
	【ズームアップ】芥川龍之介と古典		イ					196		
「ことば」を 吟味する	舟を編む	イ・ウ・エ				ア・イ		198	3	
	【作者解説】三浦しをん		カ					211		
	【ズームアップ】辞書には個性がある	ウ						212		
記録する文学	沖縄の手記から	イ・ウ・エ				ア・イ・エ・オ	ウ	214	3	
	【作者解説】田宮虎彦		カ					230		
	【ズームアップ】戦争と向き合う文学		カ					232		
語感を磨く	側転と三夏	ア・イ・ウ・エ				イ・ウ・エ・オ	イ	234	3	
	【作者解説】武田綾乃		カ					246		
	【ズームアップ】十七文字の言葉に遊ぶ	ア						247		
	【探究の扉】春や春	ア				エ		248		
受け継がれる 漢文	山月記	イ・ウ・エ				ア・イ・エ	イ	250	3	
	【作者解説】中島敦		カ					264		
	【探究の扉】人虎伝					エ	ウ	266		
詩歌の系譜	京洛の新緑、美無加、散歩途上、口占	オ				エ		268	4	
	サーカス	ウ・エ				イ・ウ	イ	270		
	I was born	ウ・エ				ア・イ・オ	イ	272		
	【作者解説】中原中也・吉野弘		カ					275		
	万葉集	オ	ウ			ア・イ		276		
	古今和歌集	オ	ウ			イ・ウ		279		
	新古今和歌集	オ	ウ	イ	ア			282		②
	【参考】和歌の修辞	オ	ウ					285		
	短歌	ウ		ア・イ	ア			286		②
	俳句	ウ		ア・イ	ア			290		②
	【ズームアップ】日本の詩歌		イ					294		
配当時数合計	A 書くこと [丸付き数字は「書くこと」の配当時数を示す]							8		
	B 読むこと		古典					42		
			近代以降の文章					20		
	合計							70		